授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立栗原中学校　氏名　髙橋大河

単元名　　第２学年　　「推論と対話で考えを広げる」

実践のポイント（工夫）

　・条件を細かく設定することで、作文が苦手な生徒にも論理的な文章の基礎を書けるようにした。

　　条件を細かく設定したことで、生徒同士が互いに評価し合えるようにした。

実践内容

　・課題文「壁に残された伝言　　井上恭介」（教科書７６ページ）を読み、テーマに沿って

　　主張文を書く。

　〈テーマ〉

　　①課題文を読んで、「戦争」について思うこと

　　②課題文を読んで、「原爆」について思うこと

　　③課題文を読んで、「命」について思うこと

　・条件を以下のように設定した

　〈条件〉

　　①「双括型」で書くこと

　　②接続語「なぜならば」「例えば」「しかし」「したがって」を必ず使う

・その他、根拠を明確にし、具体例を入れることで説得力を持たせるように指示した。

・作文が書けたら、お互いに読み合い、「条件に合っているか」「説得力があるか」をお互い

　にチェックさせる。

・読み合いをもとに、もう一度清書を書いて提出。

振り返り（成果や課題）

　・作文が苦手な生徒も、条件を設定することで書き上げることができていた。

　・お互いにチェックさせる時も、条件設定が役に立った。

　・お互いにチェックしあい、清書をすることで、全体的にそれまでよりレベルの高い文章が

　　書けるようになった。

　・状況に合わせて自ら条件を設定する力を育てたい（課題）